

「イエス様の権威」 マルコ 1:21-28

22.03.27 平吹光太

本日の箇所の前には、イエス様が洗礼を受けられ、荒野で試みにあわれ、その後、弟子達を招いたことが記されており、そして本日の箇所は宣教の働きに出られた頃のみことば。

権威と訳されているギリシャ語のエクスーシアは、新約聖書の中で、罪を赦す力（ルカ 5:24）、悪霊を追い出す力（マコ 6:7）、神の子としての特権（ヨハ 1:12）、この世の統治者の権力（ヨハ 19:10）、所有する権利（1コリ 9:6）、使徒の特権（1コリ 9:6）、キリストの王権（マタ 28:18）等の意味。本日は、イエス様が神の子として、神の権威を持って教える力と、悪霊を追い出す力から、イエス様の権威を覚え、どのように私たちは歩むべきなのかを見ていく。

I. 唯一主権者なるイエス様

「それから、一行はカペナウムに入った。イエスはさっそく、安息日に会堂に入って教えられた。」
(21)

この安息日とは聖書の初めに書かれている天地創造の業、6日間働いて1日休み安息を取ることから来ている。現代においては日本又は多くの国では日曜日が祝日。それはキリスト教から来ておりイエス様が復活された日曜日を「主日」と呼んで礼拝を行うために安息日が日曜日になった。この当時の安息日は金曜日の日没から土曜日の日没までを指しており、毎週ユダヤ人が会堂に集まりみことばを聞き、祈りを捧げていた。この集まりでは旧約聖書の箇所が朗読され、自分たちに適応するためのみことばの解き明かしがされていた。この時イエス様は安息日にそのような会堂でみことばを教えていた。

「人々はその教えに驚いた。イエスが、律法学者たちのようではなく、権威ある者として教えられたからである。」(22)

律法学者達の聖書解釈は、旧約聖書の律法をどのように適用するべきなのかを彼らは日々研究し、適用を教えるもの。現代においてもユダヤ教の人達は旧約の律法と先祖が解釈した教えを大事に守り行っている。※証 本来、律法はイエス様に導くための良いものですが、ユダヤ人達は独自の解釈を付け足し人々を縛る規則になっていた。律法学者達は聖書のみことばを会堂で話す際、自分達の言葉に権威を持たせるために有名な教師の言葉を引用した。イエス様は律法学者が教えていた教えとは違い人の言葉を引用するのではなく、ご自身の権威によってその会堂で人々に教えられた。会堂に来ていた人達はイエス様が誰かのことばではなくご自分のことばで語っていることに驚いた。イエス様は神であられるため、聖書に書かれていることの意味を全て正確にご存知でおられ、誰にも頼ることなくご自分のことばで語る事ができた。私達人間の権威は全て神様から与えられており、私たちは権威を持って生まれて来たものは誰もいない。神のみが全ての権威者であることは神が自立自存のお方であり、自由意志によって宇宙に存在するありとあらゆるものを創造し、全てを治め、絶対的な主権を持っておられるから。そのお方が御子であるイエス様を通して神の権威を用いておられるため、イエス様の権威は律法学者達の者とは違うもの。私達はイエス様の権威よりも律法学者達の

ようにみことばの本当の意味から外れたり、有名な先生や偉人の権威に頼らないよう祈りたい。※証
私達は神のみことばがそこまで言っていないのに、独自の解釈をしてしまい、神が私達を無理矢
理従わせるお方だと、神のイメージ又は神観を勝手に変えてしまわないように気をつけましょう。イ
エス様は一方的に支配し従わせるようなお方ではなく、むしろ反対で私達を自由にし喜びに溢れ
恵みへの感謝を持って仕える者とさせていただきます。

II. 権威あるイエス様のみことばにより頼み生きる

「ちょうどそのとき、汚れた霊につかれた人がその会堂にいて、こう叫んだ。『ナザレの人イエスよ、
私達と何の関係があるのですか。私達を滅ぼしに来たのですか。私はあなたがどなたなのか知
っています。神の聖者です。』」(23-24)

ちょうどその時とはイエス様が会堂で人々に教えられていた時で汚れた霊つまり悪霊もその会堂
の中にいた時。イエス様のことばによりイエス様の権威が示され悪霊はいても立ってもいられなく
なった。汚れた霊は、イエス様を「ナザレの人イエス」と、「神の聖者」と呼び、イエス様がそのよ
うな者であることを知っていた。汚れた霊が言った「神の聖者です」という言葉は、彼らがイエス様
は救い主と信仰告白したことではない。彼らがそのように言った理由は彼らにとってイエス様がお
そるべきお方であり、滅ぼされることを知っていたから。

悪霊についての説明。悪霊は元々神によって創造された天使達であり、もとは神に忠実に仕える良
いものであったが罪を犯し悪いものとなった。「神は、罪を犯した御使いたちを放置せず、地獄に投
げ入れ、暗闇の縄目につないで、さばきの日まで閉じ込められました。」(II ペテロ 2:4)と「イエス
は、自分の領分を守らずに自分のいるべき所を捨てた御使いたちを、大いなる日のさばきのために、
永遠の鎖につないで暗闇の下に閉じ込められました。」(ユダ 6)。悪霊が「さばきの日まで閉じ込め
られた」と書かれているが、なぜこの世界で自由に悪い活動ができているのか。ここでの意味は実際
にある場所での監禁ではなく、悪霊たちには救いの道が全くないという意味。悪霊は自由に悪さがで
きえると思うかもしれないが、悪霊は神の許可なくして何もできない存在。悪霊がイエス様の地上の生
涯を通して活発に活動できたのはキリストの権威が明確に証明されるため。つまり 23-24 節は御
子イエス様が来たということは神の国が到来し自分たち悪霊が滅ぼされる日が近いことを表すもの。

「イエスは彼を叱って、「黙れ。この人から出て行け」と言われた。すると、汚れた霊はその人を引
きつけさせ、大声をあげて、その人から出て行った。」(25-26)

イエス様は汚れた霊に「黙れ。」と言われた。これは汚れた霊がこれ以上語ることを許さない強いこ
とば。そして、イエス様は、「この人から出て行け」と汚れた霊に言われ、取り憑いていた人から出
ていった。イエス様はご自身の権威のみことばによって悪霊に勝利をされた。

「人々はみな驚いて、互いに論じ合った。「これは何だ。権威ある新しい教えだ。この方が汚れた霊
にお命じになる(みことばの力)と、彼らは従うのだ。こうして、イエスの評判はすぐに、ガリラヤ
周辺の全域、いたるところに広まった。」(27-28)

27 節に「人々はみな驚いて」とあるが、22 節の「人々はその教えに驚いた」の「驚き」とは異なる。27 節の「驚いて」は 22 節の「驚いた」よりも強い意味。なぜそこまで人々は驚いたのか。それはイエス様が言われたことばが口先だけではなく、現実に見られている事実で驚いた。イエス様のみことばそのものに力がある。「その方は血に染まった衣をまとい、その名は「神のことば」と呼ばれていた。」(黙示 19:13) とあるように、イエス様ご自身がみことば。私たちは神のことばよりも、まず、目に見える人やものに頼ってはいないか。状況によっては、誰かに相談や頼ることは大切。しかし何よりもまず頼るべきは絶対的な権威あるキリストのみことばに聞き従うことが最も大切。※証 私たちは、弱いものですが、主と主のみことばにより頼んでいく時、主は必ず私たちを守り、そして何よりも主をさらに深く知るものと造り変えてくださる。疑うことなく、いつも主のみことばに、より頼んで生きていくものとされたい。

結：今日は、安息日の会堂での 2 つの出来事を通して、イエス様の権威について教えられた。

一つはイエス様の権威は律法学者達とは違い誰か人の力に頼らずにご自身の権威、神として最高権威者の立場でみことばを人々に教えられた姿であった。この時代この世界にイエス様が目に見える形ではおられないが、最高権威のみことばである聖書が私たちに与えられている。私たちは神ではなく、人のことばに流されたり、自分の都合の良いようにみことばを解釈してしまいやすい弱さがある。人や自分ではなく神との交わりの中で、聖霊によって正しくみことばの理解が開かれていくように祈り求めよう。決して揺らぐことのない主のみことばに立ち続けより頼んで生きていきたい。

もう一つの出来事は、汚れた霊がイエス様の権威によって追い出されたこと。イエス様は口先だけのことばではなく、述べられた通りに必ず実現なされるお方であることも教えられた。今、私たちが神にあって置かれている場所においてイエス様を主と認め、他の誰でもなく約束を必ず実現して下さるみことばの約束により頼み、主を見上げて歩んで参りましょう。

「イエスは近づいて来て、彼らにこう言われた。「わたしには天においても地においても、すべての権威が与えられています。」(マタイ 28:18)